

機械器具 22 検眼用器具
一般医療機器 両眼視機能検査装置（JMDN コード 37071000）

ラングステレオパッド

【形状・構造及び原理等】

下記に外観図を示す。

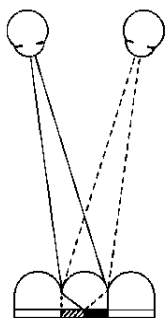


<構成>

6 枚のテストカード、テストパネル、収納ケースで構成されている。

<原理>

本品は偏光メガネ（左右眼分離鏡）を使用せず、印刷面に円柱回折縞子（かまぼこ型レンズ）を貼ることにより、図の通り左右眼の見える範囲が分けられるレンチキュラレンズの特徴を利用し両眼を分離している Hess のレンズスクリーンと、Julesz のランダムドットパターンを組み合わせたパノグラフィーである。単眼では図形（視標）を視認することができず、両眼で見ることにより図形（視標）が立体的（浮き上がり）に見える。



<仕様>

視差（検査距離 35～40 cm）

1000"（星）、車 600"（車）、400"（猫）、
200"（月）、100"（太陽）、50"（星）

【使用目的又は効果】

立体視機能の検査機器

【使用方法等】

- (1) 屈折異常がある場合は矯正し、光が直接プレートに当たらないようにする。プレートは必ず検査者が持ち、被検者の眼前 35～40 cm の近見位置に提示する。この時、検査者は被検者の視線とテストプレート表面が垂直になるようにプレートを保持する。また、このとき頭を左右に振らないように注意する。
- (2) 次に①「何か見えますか？」②「何が見えますか？」そして③「どれが一番浮き出ていますか？」等を順に被検者の年齢、知能にあわせて尋ねる。特に被検者が低年齢の場合には質問の仕方が重要なポイントとなるが、被検者自身の指で図形をつかませることにより、言葉が十分に表現できない子供にも検査が可能となる。
- (3) テストプレートを 90° 回転させて図形の位置が消えること、さらに 90° 回転させることにより図形が逆さまになること、比較表示の為に複数のプレートを使用する

等、適宜組み合わせて検査を行う。

(4) 判定

立体として認識できる最小視差を立体視力とする。

星：1000"、車：600"、猫：400"、
月：200"、太陽：100"、星：50"

【使用上の注意】

<重要な基本的注意>

- (1) 本品は磁界を発生する磁石が使用されていてペースメーカーに有害な恐れがあるためペースメーカー装着者に対し注意すること。
- (2) 本品の使用者は、医師及び医師の指示を受けた人、視能訓練士だけに限定すること。
- (3) 検査プレートの表面に傷がついていたり検査プレートが変形したりしていると、立体視検査に支障をきたすので取扱いや保管には注意し、このような異常がある場合は、使用しないこと。
- (4) 検査距離は 35～40 cm を保つこと。

【保管方法及び有効期間等】

使用しないときは常に専用の収納箱に入れる事を推奨。

常温に保管すること。但し、40℃以上の高温、5℃以下の低温及び 70%以上の湿度は避ける。

退色を防ぐため、検査プレートに不必要な光が当たらないように保管すること。上に物をのせたりしない。熱、特に日光により変形するので注意する。

【保守・点検に係る事項】

よごれた場合は、柔らかい布で軽くはらい、必要に応じ湿らせた柔らかい布で拭く。また、必要に応じ少量の中性洗剤を使用する。

ひっかいたり、研磨剤や溶剤は決して使用しないこと。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者

ジャパン フォーカス株式会社

〒113-0033 東京都文京区本郷 4-37-18

TEL (03) 3815-2611

外国製造業者

LANG-STEREOTEST AG スイス

緊急連絡先

ジャパンフォーカス株式会社 TEL (03) 3815-2611

株式会社 JFC セールスプラン TEL (03) 5684-8531

取扱説明書を必ずご参照ください。